

関係者のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 学校防災教育推進部長 古俣 和博

新潟市の小学校で防災学習の成果発表会を評価

「地域防災の日」へ協力依頼を受け、6 年生 2 クラスの防災学習の成果発表会を評価した。生徒が、総合学習の時間に「防災」について学んだ成果を地域住民の前で発表する指向となっている。(学習参観形式で生徒の発表や疑問に答える形で実施された) 防災学習の自校化が実施されている好事例であると感じた。尚、当日は、全学年による避難訓練も実施している。

日 時: 令和 4 年 9 月 27 日(火)
場 所: 新潟市の小学校教室
内 容: 地域防災の日: 生徒の成果発表
参 加: 6 年生 2 クラス
授業 1: テーマ「避難所の未来について考える」
授業 2: テーマ「学びをつなぐ 学びを紡ぐ」

各クラスがテーマに対し 司会者と発表者に分かれ自分たちの調べたことを発表。発表内容は「快適な避難所の在り方」「ペット同行」「災害時要支援者」「食料備蓄問題」「福祉避難所」「避難所での低年齢者への支援」など多岐にわたり真剣に取り組んだ成果が発表された。なかには、他校から最近転校した生徒は、「前の学校と違う防災学習の取り組み方に驚いた」と話していた。この生徒は「2022.8.4 新潟県県北地域豪雨災害」の記事をスクラップして「命を守る行動」について発表した。生徒が iPad を駆使して発表する手法はまさに、「GIGA スクール」の仕様であった。また、生徒が調べた「防災食備蓄」を民間大手スーパーマーケットとコラボレーションして店舗の一角に展示販売コーナー「テーマ: **もしもの備えは普段から**」を設置しており、特に栄養面に配慮した品物が販売されていた。

防災士からは、「家族で防災ごっこ」を提案した。災害を想定し家の中で、トイレ、電気、ガス、水道のライフラインが使えない状態で 24 時間過ごす。(寝具は使用しない: 毛布 2 枚とアルミブランケット) 実証体験をすることで、さらなる備えにつながることを説明した。



授業参観
の様子



生徒による
学習発表の
様子



大手
スーパーでの
小学校特設
コーナー

